

送別のことば

学長 桑原真人

永年にわたって札幌大学の短大を中心として教育・研究に貢献されてきた三ツ木芳夫教授、長谷部宗吉准教授、松田潤准教授が、今年度をもって女子短期大学の教育職に別れを告げられることになりました。三先生とも、在職中は一貫して短大教育の発展にご尽力され、定年を迎えられた後も勤務延長教員として科目担当を続けられ、今日に至りました。

また、併置する四年制大学では、兼任講師として、あるいは司書課程科目の担当教員としてお力添えいただきました。まずもって教育職員を預かる両校の学長として、皆さんに謝意を表明する次第です。

三ツ木先生は、かつて短大に国文・英文・経営・文化の4学科が置かれていた時代から経営学科に所属され、経営学や経営史を講じる一方で、経営学科長、研究室委員会委員長を歴任されました。

長谷部、松田の両先生は、短大に設置され、四大生にも特別科目等履修の形で門戸が開かれていた司書課程を、実質二人で切り盛りされる中で、長谷部先生は附属総合研究所副所長、松田先生は英文学科長、図書館長の要職にも就かれ、学内行政にご尽力いただきました。重ねて敬意を表します。

平成25年4月には、大学の5学部廃止と一学群化に併せ、短大でも、英文・経営の2学科廃止とキャリアデザイン学科の開設という大きな改革を断行しました。その際、これらの三先生には、経験豊富なスタッフとして、短大教育のみならず、四年制大学でも引き続きご貢献いただきました。この改革から4年が経過して、大学における地域共創学群の完成年度を迎え、大学、短大とも新たな次のステージへの移行を控えています。

図らずも私自身、三ツ木、長谷部、松田の三先生と共に、今年度で退任する身ではありますが、短大の一時代を支えてきたこれら三先生はもちろん、これまで短大教育にご尽力いただいた方々に、この場をお借りして、改めて敬意と謝意を表します。

本学の改革は今後も続けていかなければなりません、三先生におかれましては、今後とも健康に充分ご留意いただき、次世代の奮闘する姿を、私と共に見守っていただくことを祈念して、感謝とお別れのことばといたします。ありがとうございました。